



# 紫雲児の心

学校の1年間の中で最も忙しい2学期ですが、感染症対策を行いつつ、体育祭や合唱コンクールも実施できました。新潟県内や新発田市内では感染拡大もありましたが、紫雲寺中学校では幸いなことにコロナ感染症による臨時休業や学級・学年閉鎖をすることなく教育活動を進めることができました。感染拡大防止に対する保護者・地域の皆様のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

しかし、最後の最後で、警報級の大雪が予想されるために明日は市内小中学校が臨時休業となり、明日予定していた終業式を、急遽、本日実施しました。中学生の年代は、子どもから大人に向かって精神的に大きく成長する時期です。自分なりに、できることを考え、実践し、人として自立し、成長していけるようにと願い、終業式では全校生徒に「3つの喜び」の話をしました。

## 人の「3つの喜び」

校長 五十嵐 めぐみ

人の喜びには3つの段階があると言われています。第1段階の喜びは、「誰かに何かをしてもらった時に感じる喜び」です。生まれたばかりの赤ちゃんは、お腹が空いたりおむつが汚れたりして不快だと、泣いて知らせます。ミルクをあげたりおむつを交換したりすると、満足して泣き止みます。これが、第1段階の喜びです。第2段階は、「自分でできる喜び」です。幼い子が、それまで大人などにしてもらっていたことを自分でできるようになると、「見て見て！自分でできたよ！」と大喜びします。これが第2段階の喜びです。でも、ここで終わりではありません。もう1つ上の、第3段階の喜びがあります。それは、「誰かのために何かをして、相手に喜んでもらった時に自分が感じる喜び」で、人の喜びの中で最高の喜びです。「自己有用感」とも言います。この、最高ランクの喜びをたくさん味わうほど、人は幸福を感じます。

カタールで開催されたサッカーの世界カップで、日本は、格上のドイツとスペインに勝ち、グループリーグ1位で決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメント1回戦で惜しくもクロアチアにPK戦で敗れましたが、世界から賞賛される素晴らしい試合でした。試合だけでなく、日本人サポーターの試合後の客席でのゴミ拾いは、今大会でも世界中から注目を集めました。日本サッカー協会によると、この活動は「未来のために今からできることはないだろうか？」と、環境問題に配慮して始まったということで、ゴミ拾いを「ファインプレー」と称し、使用しているゴミ袋もリサイクル素材で作られているそうです。ゴミ拾いはサッカーに直接関係ありませんが、環境のため、つまり、地球全体のために役立つ行動です。この行動は、スタジアム関係者やサッカー関係者のみならず、その行動を知ったたくさんの方の心に温かい思いを届け、幸せな気持ちにしてくれました。そして、世界中の人から賞賛されたことで、ゴミ拾いをしたサポーターたちも大きな喜び、満足感、自己有用感、幸せを感じたのではないのでしょうか。

「誰かのために、自分(たち)ができることはないか？」と主体的に考えて自ら行動する人は、感謝されることにより、幸せになれます。

2学期は行事や様々な活動がありましたが、その中で、誰かのために、みんなのために、頑張ってくれた人がたくさんいます。その人たちは、人として最高ランクの喜びを味わい、大きく成長したはずです。自信をもって、これから先も新たな目標に向かって努力を続け、人のために行動できる人になってください。そして、人として最高ランクの喜びをたくさん味わい、幸せになってください。